# 図書館に行こう

Books

●**串間市立図書館**
☎72-1177
●**開館**＝午前10時～午後６時
●**休館日**＝毎週月曜日
●**ＨＰ**＝https://www.city.kushima.lg.jp/library/index.html

**新刊情報**

切腹屋（岩井 三四二／著）
いけない（道尾 秀介／著）
仕掛島（東川 篤哉／著）
奇跡を蒔くひと（五十嵐 貴久／著）
クロコダイル・ティアーズ（雫井 脩介／著）
付き添うひと（岩井 圭也／著）
高島太一を殺したい五人（石持 浅海／著）
あらゆる薔薇のために（潮谷 験／著）
夏日狂想（窪 美澄／著）

## 「麻阿と豪」
諸田 玲子／著

豊臣秀吉の妻となった「麻阿」、秀吉の養女として宇喜多秀家に嫁いだ「豪」。前田利家の２人の娘は、時に対立しながらも助け合い、秀吉の死、関ケ原の戦いを乗り越えていく…。

## 「なにになれちゃう？」
チョー ヒカル／著

手と手を合わせると、きれいなちょうちょになった？曲げたひじとひざが、しわしわゾウと桃になった？よく見ると体に描かれた絵だった!?アーティスト・チョーヒカルが贈る、子どもの想像力を育むボディペイント絵本。

## 今月のテーマ展示 「いしかわこうじ」特集

11月27日(日) にワークショップを行う「いしかわこうじさんの絵本」を特集します。「おめんです」「まほうつかい」「はたらくのりものえほん」「たまごのえほん」「ぱんだくんのおつかい」「クリスマスのかくれんぼ」などめくって楽しい絵本がいっぱいです。ワークショップの前にどうぞ借りに来てください。

**イベント情報**

### 絵本作家 いしかわこうじさん ワークショップ ～ペーパーわんこをつくろう～

●**日時**＝11月27日（日）午前10時～正午
●**場所**＝市中央公民館体育室（旧アクティブセンター）
●**定員**＝先着50名（要事前申し込み）

絵本の読み聞かせやサイン会もあります。詳しくは図書館までお尋ねください。

# SDGsの中身を見てみよう その２

【問い合わせ先】
総合政策課企画係☎55-1152

SDGs「Sustainable Development Goals」（持続可能な開発目標）の中身について前回に引き続き紹介していきます。

## ４．質の高い教育をみんなに

４つ目の目標は、「全ての人に包摂的かつ公平で質の高い教育を提供し生涯学習の機会を促進する」ことが目的です。日本では小学校・中学校の９年間の義務教育があり、子どもたちが教育を受けることができます。しかし世界には学校に通えない子どもたちが約１．３億人もいるといわれています。小学校に入学する年になっても紛争や戦争、災害の影響を受け学校に通えないまま生活しています。教育を受けることは貧困から抜け出し、安定した収入のある仕事につくために必要不可欠なものです。また教育の質を確保することも必要です。文字の読み書きは教育の基礎ですが、この読み書きをしっかりと教わることができない環境も存在します。教育の機会と質を確保することが重要なのです。

## ５．ジェンダー平等を実現しよう

男らしく、女らしくと聞いたことはありませんか。男女の違いは身体の作りのほかに、社会的・文化的役割の違いがあります。男性はこうあるべき、女性はこうあるべき、と無意識に決めつけている男女の違いを「ジェンダー」といいます。たとえば外で働くのは男性、家のことをするのは女性と考えるような先入観がジェンダーの不平等や差別となっています。

世界では女性であるというだけで教育を受けられない、10代で結婚・妊娠・出産させられる、人身売買されるなど、さまざまな差別を受けるケースがあります。

また、これまでの男女の違い以外に新たな性の考え方として「ＬＧＢＴＱ」という考えが生まれています。ＬＧＢＴＱの人たちは、さまざまな差別を受けやすい立場にあります。どのような性の在り方でもお互いを大切にすることが重要になります。

男女の格差を比べる2021年のジェンダーギャップ指数によると、日本は156カ国中120位でした。この順位は、日本が男性、女性が平等となるよう社会として解決していかなくてはならないことがあることを教えてくれています。まずは身近な所で、お父さんとお母さんが仕事も家事もすべて協力し分担しあうことを確認してみるとよいかもしれません。



市長コラム

# 山本八重の生涯

今回は「幕末のジャンヌダルク」とも呼ばれた山本八重の話をしたいと思います。以前、福島県伊達市の友人と会津視察に行った際に鶴ケ城、白虎隊、戊辰戦争の歴史などを学びました。その中でも山本八重という女性の、命を懸けて守ろうとした会津魂、凛とした姿勢、「ならぬことはならぬものです」と厳格に教戒した、信念を貫く生き方に感銘を受けました。会津藩士・山本権八の娘である八重は、幼少期から裁ほうより武術を好むほど男まさりの性格で、頭も良く文武両道に長けていました。戊辰戦争では主君のため、また鳥羽伏見の戦いでの負傷が原因で亡くなった弟のために、八重は自ら髪を切り戦死した弟のはかまを着て、銃を持って戦ったそうです。

その後八重は兄の山本覚馬を頼り京都に移り住みます。そこで京都府顧問であった兄らと同志社英学校（現同志社大学）を創設した新島襄に出会い結婚します。２人は同志社大学の発展に努力するも、新島は心臓病を患い、48歳の若さでこの世を去ってしまいます。新島は八重との出会い、結婚したことを喜んでいて、晩年まで夫婦仲はとても良く、友人に「彼女の見た目は決して美しくありません。ただ、生き方がハンサムなのです。私にはそれで十分です」と手紙に書いたそうです。その後の八重は、社会に貢献するため日本赤十字社の正社員、日清戦争では篤志看護婦として傷病兵の看護に従事するなどの活躍をされました。遺産のすべてを同志社大学に寄付し、86歳にて生涯を終えられています。葬儀にはなんと４０００人ほどの方たちが弔問に訪れたそうです。

悔いのない人生を過ごすには何事にも信念を持って取り組む姿勢が重要です。八重の人生もさまざまな困難がありながらも、強い信念を持って進んだからこそ素晴らしい偉業を成し遂げられたのだと思います。現代社会においても、人任せでなく自分から進んで社会に明かりをつける勇気が欲しいものです。よりよい社会を形成するには男女全ての人がそれぞれ力を発揮させ団結することが必要です。またそのために、老いも若きも学ぶことに努力を惜しまず、何事にもチャレンジ・挑戦することは人生を豊かにします。まずは家庭では夫婦円満、それが社会円満につながる、そんな串間を皆さんでつくっていきましょう。

地域おこし協力隊
# 活動日記

## No.67 ドボジョの日々

甲斐 舞子さん

子どものころは、泥だんご作り、庭で穴掘り、砂浜で落とし穴作り、暗くなるまで夢中で掘るのが大好きでした。そして、今シーズンからピーマン栽培を始める夫のハウス整備で、私は８月下旬から毎日毎日土掘りでした。止水シートを補強するために、重機が入らないハウスの外周はシャベルとクワを使って人力で太い雑草の根っこや、堆積していた粘土質の地層と格闘しながら、30センチから40センチほどをひたすら掘っては止水シートを張り、シートがピーンと張るようにひたすら埋める作業を行い、額縁明渠と排水路を可能な限りひたすら掘って、仕上げに土の整地を行いました。水はけが超絶悪い部分だけは、小型重機で明渠を掘っていただいたのですが、こんなに短時間で、こんなに深く掘れるのかと、文明の利器「農業機械」に感動し、重機の免許を取得したいと思いました。そして、ふと気が付いたのです。私、農業女子ではなく、土木女子ではないかと。

９月中旬ごろからは地元農家さんたちから、ビニールを張るための黒いハウスバンドの準備や、パッカーでビニールを留める作業、巻き上げパイプの設置、土作り、定植方法などなど、農家の知恵と技まで、手取り足取り親切に教えていただきました。

農業って、ハウスの準備や管理、土や苗の管理、防除、収穫出荷作業、そして先の展開を見据えた戦略の構築など、想像をはるかに超えた作業内容があり、体力勝負だけでなく、常に時間との勝負だということに気付かされました。ピーマンの定植に間に合うように夫と二人でコツコツと準備していましたが、大型台風もあり、この進行状況で間に合うのか？と心の中で心配しているところ、たくさんの地元農家さんたちのご協力であれよあれよとハウスの設営が進み、土作りから定植が延期になった苗の鉢上げ、定植まで間に合うことができました。農業は個人経営ですが、一人ではできません。たくさんの方に支えられながら今日という日を迎えることができました。心からの感謝と共に、より一層の努力をして成果を上げられるよう励んでいきたいと思います。地元農家の皆さま、本当にありがとうございました。そして、今後ともよろしくお願いいたします。